

平成 27 年 10 月 10 日(土) 14 時から本年度第 7 回目(通算 127 回目)の起業の鉄則研究会を開催しました。会場は、大阪駅前第一ビル 11 階神戸大学学友会大阪凌霜クラブ。

参加者は、25 名で、居酒屋チェーン創業者、大手飲料メーカー相談役、段ボール製品メーカー経営者、IT 経営者、信託銀行社員、NPO 法人代表、医療機器メーカー社員、証券仲介者、大手製造業企業社員、易学者、プロカメラマンなど多種多彩なメンバーに参加いただきました。今回は、医薬品のリーディングカンパニーにて、商品開発、特許取得などご経験し、自ら製薬会社を起業された起業家による新製品開発や人生の目標設定への挑戦や、中小企業で取り組みが難しい後継者育成ビジネスを専門に勧められている起業家にご講演いただきました。他では聞くことができない、チャレンジスピリット旺盛なご講演をしていただきました。関西に新しいビジネスモデルが生まれていることが実感できる研究会になりました。

◆【第 1 部】

「食べ物・薬の飲み込み事故ゼロへの仕組み開発！～武田流トップシェアのつかみ方～」

講師：モリモト医薬株式会社 代表取締役 盛本 修司 氏

・高齢者や子供が PTP 包装ごと飲みこんで無くなるケースが増えており、厚生労働省もこういった事故を無くすための通達を医薬業界に出している。この卯木期がある中、当社開発の ESOP は材質が柔らかいプラスチックなので、死亡事故が無くなるだろう。包装市場は年間約 5 兆円。当社の ESOP になれば、安全面が高まり、製造コストも大きく下げることができる。医薬業界に採用を積極的に働きかけたい。当社は大阪の御幣島に工場がある。特許を多くとり、他社へライセンスするビジネスモデルである。

・子供の頃から、勉強を一生懸命やる時期と、仲間づくりと遊びを一生懸命やる時期がある。

17 歳までは勉強・スポーツ・英語・コンピュータ。22 歳までは遊びと仲間。武田薬品入社後は、がむしゃらに挑戦し、研究と特許に取り組んだ。おかげで、主力製品に育っているタケプロンの開発・特許取得ができた。起業後はゼリー状の開発。55 歳から 60 歳まではこの ESOP 開発に熱中した。これからは、当社の大成長期になるようにライセンス事業を伸ばしたい。事業経営のベースは、企画、特許、契約書、資本戦略、関係会社づくり。まだ、成功者ではない。皆さんとコラボしたり、事業提携などもやっていきたい。

◆【第 2 部】

「右腕を育てましょう！～人材不足時代の育成方法～」

講師：株式会社ミッションラーニング 代表取締役 上田 真士 氏

・大阪芸術大学卒業後、大手通販会社ニッセンにて人事等を担当。その後、建設機材のエスアールジータカミヤに人事職で転職。当時、新卒者の離職率 50%であったのを 10%にまで低減することができた。やはり企業は人事が大切。その後、人事面でサポートしようと独立。

・中小企業の廃業理由の 6 割は後継者がいないこと。右腕がいない。社長は孤独なのだ。(社長の)右腕とは、社長と同じ想いを持ち、社長と同じ目線で経営を考え実行していく人。右腕に期待するのは、社長の今の仕事を引き受け、社長が次のステップに仕事ができるようにすること。経営の意思決定の判断材料を考えられる人材を育てること。社長のご意見番となることである。右腕がこういった役割をこなすと、社長は意見をみたくうえで決断でき

る。

- 右腕が社内でなかなか育たない理由は、社長が右腕になれるような人に何をさせたらいいのかを明かにしていない。自分と同じことができる人をもう一人欲しいと考えてしまう。責任や権限を渡そうとしないことが壁になりやすい。右腕が育つ会社は伸びやすい。だから、社長がやらない仕事を決める。社内で右腕を指名し、1つの仕事をやらせる。その様子を見ながら、役職をつける。任せた仕事の具体的な方法は右腕に考えさせる。社長は右腕に経営方針を繰り返し伝える。毎週、10分程度は面談し、意思疎通する。月1回ミッションラーニングすると右腕が育つ。右腕育成の7つのプロセスに基づいて、期限を決めて目標を設定する。第二次大戦時の日本の連合艦隊司令長官であった山本五十六氏の人材育成の名言がある。「やってみて、言ってみせて、やらせてみて、褒めてやらねば人は動かじ。話し合い、耳を傾け、承認し、まかせてやらねば、人は育たず。やっている、姿を感謝で見守って、信頼せねば、人は実らじ」

講義終了後、懇親会を近くのビアホール「キリンケラーヤマト」にて開催。講師の方々とともに、医薬品業界の動向やユニークな資金調達方法、独立心の強い人は右腕には向かないなど率直に意見交換でき、この研究会ならではの異業種交流ができ好評でした。次回は2015年11月14日、神戸会場にて開催予定。

